令和７年度　福井市の認定こども園、保育所等における質の向上のためのアクションプログラム vol.3

（園番号）№746　　（園名）　**岡保こども園**

カテゴリー		園での取り組み （具体的なアクション内容）	いつまでに （取り組みのスケジュール）	どのように （それを実現するための具体的な方法・手段）	年度末達成度 （◎・○・△・×）	備考
Ⅰ　子どもの育ちを保障します	幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に基づき、福井の豊かな環境を生かした質の高い乳幼児の教育・保育を提供します	(1)**【子ども主体の保育・自然あふれる環境の中での保育】** ・子ども自ら遊びを見つけ、遊び込める人的、物的環境を整える ・一人ひとりの成長発達の実情を把握する ・子どもの興味、関心、欲求にあった活動を進める ・主体性のある子どもの保育に取り組む ★ 自然との関わり ★ 砂、土、泥あそび 水、木でのあそび 動植物との触れ合い たけのこ山でのあそび でかでか山でのあそび	≪泥んこ遊び≫ 年間を通して取り組む ≪たけのこ山での遊び≫ 年間を通して取り組む （熊出没時期は避ける） ≪でかでか山での遊び≫ 年間を通して取り組む （熊出没時期は避ける）	・園庭の整備…色々な種類の土を用意し必要に応じ補充する 毎朝、遊び出しやすいように土をほぐす　（当番制にする） 遊びの状況、時期などによって、木、板、竹筒を出す ・たけのこ山、でかでか山の整備…専門の先生の指導のもと、年に 1～2 回職員・保護者の人たちと一緒に整備を行う（保護者会活動） ・月に 1～2 回はたけのこ山、でかでか山に出掛ける ・子どもたちは衣服の汚れを気にせず、存分に遊べるように泥んこ専用の服に着替えてから、園庭に出る ・保育者は、そっと子どもたちに寄り添い、子どもたちのつぶやきに耳を傾けたり、遊びの段階を把握したりしながら意欲的に遊び・生活に取り組めるようにする ・未満児・以上児に分かれて月案打ち合わせを行い、それぞれのクラスのねらいが年齢に合ったものかどうかを話し合ったり、共通理解をしていく	(1) ◎	・園内研修や日々の昼礼などで園庭の環境や園庭の使い方を話し合って決めながら、以上児を中心に、でかでか山、たけのこ山に出かけて山遊びの機会を継続的に持つようにした。しかし、全国的にクマの出没が相次ぎ、秋の山遊びはほとんど行うことができなかった。その分、雪が解けた３月に山に出かけて山遊びを楽しんだ。 ・里山整備は、今年は６月、10 月、３月と３回行った。 ・月案の打ち合わせを毎月、未満児・以上児に分かれて行った。 ・遊びの中で絵を描ける環境を考え、風除室や渡り廊下、ベランダや外の園庭で絵を描くようにした。
		(2)**【教育・保育の質の向上につなげる自己評価】** ・年度末に職員の自己評価を行い、一年間の保育を客観的に振り返って現状を把握して改善し、教育・保育の向上につなげる	・年１回	・年度末に自己評価を行う。まず自分で自己評価を行い、その後副園長・主幹が一人ひとりの職員に対して評価する。違う視点で一人ひとりを振り返り、改善に努める	(2) ○	・３月に自己評価を行った。個人で自己評価を行い、園長が一人ひとりの職員に対して評価した。自分で頑張った点を確認したり、保育や仕事の姿勢に対する反省点を振り返ることで、今後の課題や自分の強みを知ることができた。
		(3)**【きめ細やかな保育】** ・保育カウンセラーとの連携をとり、気がかりな子への対応について学ぶ	・年２回	・気がかりな子に対して『ふくいっ子ファイル』を記入し、その子の特性を理解したり、『育ちの支援計画シート』を作成したりする ・保育カウンセラーの先生に子どもの様子を見てもらい、専門の先生と全職員とでこれからの保育の指導、援助の手立てなどを話し合う	(3) ○	・保育カウンセラーで対象の子どもについて深く考察したり、手だてを考えることができた。 ・ふくいっ子ファイルを継続して使って行けるようにしたい。
		(4)**【子ども達の安全確保のための計画・マニュアルの作成】** ・保健・食育計画を作成する ・毎月、避難訓練を行い、避難の仕方を知る ・危険箇所点検を行い、子ども達の安全を守る	・避難訓練　年 12 回 ・危険箇所点検　年３回 （6 月 11 月 2 月）	・保健・食育計画を作成し、保育の中に取り入れていくようにする ・職員間でマニュアルの共通理解をする ・避難訓練を行い、安全に避難する方法を知り、保育者の指示に従って避難する ・年３回　園舎内外の危険箇所点検を行い、子ども達が安全に遊べるようにする ・岡保地区の危険個所点検を年に１回、役員中心に行い、地区内で子ども達が安全に遊んだり過ごせるようにする	(4) ◎	・避難訓練では、その都度問題を話し合い、想定の災害に対して最適な避難方法を共通理解していくことが出来た。 ・毎月の職員会議の中で保健・食育計画を確認し合ったり、危険箇所や怪我を防止する為の確認を行うことが出来た。
	保育者等の専門性及び資質の向上を図ります	(5)**【保育者の専門性の向上】** ・子どもの絵を通して 絵画の先生に来てもらい、職員の勉強会を行う ・自然との関わりを通して 今までの自然との関わる保育のビデオを見返し、研修を行う 園内で保育のみあいっこ研修を行い、お互いの感性を磨く ・毎日の昼礼時に、保育を振り返り、保育を反省したり認め合って職員間で話し合いの場を持つ ・月初めに月案打ち合わせを行い、各年齢の月案について話し合う ・園内リーダー・年齢別リーダー・係としての責任を持ち、組織的に保育や任務を推し進めていく ・保護者へ保育の様子を伝えて啓蒙していく。 コドモンドキュメンテーション 園だより	・園内研修　毎月１回 ・毎日の昼礼時 ・毎週木曜の昼 ・毎月２～４回 ・毎月１回	・年数回は子どもが描いた絵を全職員で見て、心の内面をさぐったり、今後の遊びや心の発達の手立てを考える ・園内研修で計画していく ・長谷光城先生に園児の絵を見てもらい指導を受ける ・東京で行われる絵の展示会・研修会に参加する ・公開保育を行う中で子どもの遊ぶ環境を改めて考えたり、遊びの中での学びを見取り話し合う ・園内研修担当が中心となって園内研修の内容を検討し、計画を立てて実施していく ・昼礼時その日の保育を振り返り、気付いたことや戸惑ったこと感激したことなどを保育者同士で伝え合い、他の保育者の意見を聞いたりアドバイスを受けたりする ・毎週木曜日は、各年齢の担任が集まって話し合い、『週のプロセス』（次週の週案）を立てて、計画的に保育を進める ・日頃の保育の様子をコドモンのドキュメンテーションで写真やコメントと共に保護者に伝えていく	(5) ○	・長谷先生に子どもの絵を見て頂き、絵から読み取れる内面や、自分達の保育の見直しが出来、保育に生かしていく事が出来た。 ・今年度は初めての絵の展覧会『岡保展』を 12/13～12/20 の期間開催した。４月から描いた全園児の絵を、新園舎『ぽかぽか』に展示した。たくさんの保護者の方に見ていただくことができ、絵を通して子どもたちの会話もたくさんすることができた。 ・園内研修で、子どもの絵を見る日を決めたことで、子どもの心について保育者全員で話し合う時間がもて、日々の保育に生かしていくことが出来た。 ・東京で行われた絵の研修会に参加し、他園の保育環境や絵を見たり、情報を共有したりし、自園の保育や絵を描く環境を見直すよい機会となった。 ・『週のプロセス』で園全体の次週の週案を立てることで、他のクラスがどんな活動をするのか分かり、園庭の使い方や散歩の計画をスムーズに立てることができた。ただ、忙しい時期は週のプロセスを立てられなかった時期もあった。習慣化していくようにしたい。 ・日頃の保育の様子を各年齢ごとに『コドモン』のドキュメンテーションで伝えていった。年齢に応じた頻度で、園での活動や子どもの様子をアプリを活用して保護者に伝えることができた。

		(7)**【研修意欲を高め、保育者が積極的に研修に取り組む環境づくり】** ・保育者一人ひとりに必要な資質向上のための研修計画を作成し、実施する ・福井県幼児教育センターの研修に参加する	・年間を通して	・保育者の経験年数や職務分担に応じた必要な資質向上のための研修に参加する ・保育者がそれぞれに自分の保育を見せ合ったり、他の年齢の子どもの遊びを見に行き、遊びの見取りを行う	(7) ◎	・職員の担当クラスや経験年数、担当する係に応じて、できるだけ職員全員が均等に研修に参加するようにした。 ・公開保育の中で、園庭遊びから子どもの学びを読み取り、参加された先生方とグループセッションで気づかなかった子どもの姿や学びを知ることができた。
Ⅱ子育てライフを支援します	認定こども園、保育所等を利用する保護者への支援の充実を図ります	(8) (9)**【保護者のこども園体験の実施】** ・お父さん、お母さんに都合の良い日にこども園に来てもらい半日子どもと一緒に過ごしてもらう ・懇談会を行い、子どものことについて園での様子を話したり、普段心配に思っていることや対応の仕方などを話し合う機会をもつ ・保護者に子育ての方法を具体的に知らせていく **【ビデオを通して子どもの成長を観る会を通して】** ・子どもの様子をビデオにおさめ、保護者に年間を通して子ども達の成長していくプロセスや様子を具体的に知らせる	・6月～8月の間 ・5歳児は希望者にのみ行い、8月に個人懇談を行う ・1歳児は9月または１０月に3～5日間の体験日を設けて行う。 ・０歳児は秋以降に個人懇談を行う ・年１回 （1月・2月に実施予定）	・こども園体験の案内を各家庭に配布し、体験に参加できる日を知らせてもらう ・その日一日はお母さん(お父さん)先生として子どもと一緒に過ごしたり保育者の手伝いをしてもらったりする ・発達記録表を基に話し合う懇談の時間を設け、子どもの理解をお互いに深め、今後の子育てを考えていく ・期間中に、こども園体験に参加出来ない方は、時間を設け懇談だけでも行う ・子ども達の普段の様子や活動のプロセスをビデオにおさめ編集し保護者の方に見てもらうことで、プロセスが大切な事は理解してもらい、園での様子を見たり、その年齢の発達を知らせたりしていく	(8) ○ (9)	・『こども園体験』は、6～10月の時期に行い、計82名の保護者の方の参加があった。園での様子を見てもらったり、発達記録表を基に個別に懇談を行ったことで、保育者は家庭の様子や日頃の悩みが分かると共に、保護者は我が子の成長を感じとることが出来た。 ・5 歳児が8月に個人懇談を行ったことで、小学校へ向けての話や心配事を保護者の方と共有することが出来た。
	地域子育て家庭への支援の充実を図ります	(10) (11) (12)**【子育て支援広場の開催】** ・子育て支援広場『岡保なかよし広場』を開催する。	・月１回（計９回）	・『岡保なかよし広場』を、福井市広報【スマイルサポート通信】に載せたり、HP に載せて参加を呼びかける ・同年齢の子どもをもつ保護者同士の交流をもったり、歌を歌ったり遊んだりと、子どもと一緒に楽しむ時間を提供できるようにしていく ・日頃の子育ての悩みを聞いたりアドバイスをしたりする	(10) (11) ○ (12)	・今年度は『岡保なかよし広場』を６月から毎月行い、毎回 5～10 組の親子が参加して、園の雰囲気を感じたり、保護者同士の交流をもつことが出来た。 講師の先生を招いて『ベビーヨガ』や『育児相談会』を行ったり、栄養士による『離乳食のお話会』など行った。 参加した保護者の方からは、子育て支援の場が保護者同士の交流の場になることや、こども園の様子を知ることができると好評だった。 ・１２月より新園舎『陽だまり広場　ぽかぽか』にて、地域に向けた子育て支援事業『ぽかぽか広場』を開催している。週１回、地域の子育て中の親子が集まり、自由に遊びながら子育ての話をしたり、保護者同士の交流の場となっている。毎回たくさんの方に参加していただいている。 ・『園見学』を希望する方も増えた。参加された方からは「園庭や自然の中でどうやって遊んでいるのかを知りたかったので見学できて出来てよかった」という声があった。
Ⅲ多様な連携と協働を進めます	子育ち・子育て支援のネットワークの中で認定こども園、保育所等の役割を発揮します	(13)**【保健センターや福井市の支援事業実施関係機関の連携】** ・健康管理センター･･･健診や幼児相談会 ・福井市子育て支援課･･･気がかり児、ふれあい児、保育カウンセラー ・福井市学校教育課･･･就学前教育相談 ・福井県特別支援教育センター･･･気がかりな子どもを支える保護者への教育相談や小学校との連携	・年間を通して	・１歳半・3 歳 7 か月児健診への保護者の方の参加の推進や情報提供を行う ・各機関と連携しながら、子ども達が健やかに成長していけるように、援助の仕方を教えてもらったり実践したりしていく ・気がかりな子に対しては、保育カウンセラーに見てもらい、機関と保護者の方と共に、互いに情報を共有しながら支援を進めていけるようにする	(13) ○	・健診時に保健センターと連携し、子どもの発達について保護者と共通理解が出来た。 ・各専門機関（放課後等デイサービス、児童発達支援事業施設）や保育所等訪問支援員と協力して、保護者との情報を交換する機会を持てた。
		(14)**【岡保地域を基盤とした各施設との交流】** ・各施設との親睦を深め、それぞれの良さを認め合い支援の充実を図る （児童養護施設）ほほ咲みの郷との交流　・・・花野谷町 （障害者福祉施設）あけぼの園との交流　・・・河水町 （グループホーム）岡保きらめきとの交流・・・曽万布町	・園児の受け入れ ・陶芸教室・おやつのパンの購入 ・岡保きらめきのいも掘りに参加	・『ほほ咲みの郷』の園児を受け入れ、保育していく。その際、職員の方との連絡を密にとり、子どもの対応について連携していく ・園児が『あけぼの園』に出向き、通園している方に陶芸の仕方を教えてもらったり、おやつのパンを購入したりして交流をもつ ・曽万布町へ岡保きらめきを訪問していも掘りを一緒に行ったり、岡保きらめきの方がこども園を訪れて子どもの前で清掃を行うなど、互いに交流する	(14) ○	・あけぼの園でおやつのパンを購入したり、陶芸を教えてもらったりと、交流がもてた。 ・岡保きらめきの利用者さんに午前中の時間に園内の掃除をしていただき、その中で園の雰囲気を感じてもらったり、園児とふれあいを持った。 また、岡保きらめきにも出かけ、ジャガイモやサツマイモ掘りの体験をさせてもらった。まつりにも参加し、日ごろの感謝を伝えた。
		(15)**【小学校との連携】** ・岡保小学校と園児との交流 ・家庭・地域・学校協議会に園長が参加する	・年 3～4 回 ・年 3 回	・小学 1.2 年生の活動に招待され、一緒に楽しんだり、年長児が小学校の雰囲気を感じたりする ・地域の教育・保育について、こども園・小学校・地域の代表が話し合い、共通理解し互いに協力しあえるようにする。	(15) ○	・『おもちゃフェスティバル』に招待してもらい、１年生の様子を見たり、交流を持つことができた。学校の中に入って一緒に活動することで、小学校の様子を知ることが出来た。 ・『わくわく交流デー』に参加し、入学予定の小学校に行って様子を見たり、小学生との交流を持つ中で小学校への期待に繋がった。

		(16)**【地域活動拠点としての場づくり】** ・子育てすまいるサポート通信を配布する。	・年間を通して	・岡保こども園の保護者とクリスマスプレゼント作りや弁当袋作りなどを行う ・福井市子育てすまいるサポート通信を、在園児の弟妹に渡し、生かしてもらう	(16) ○	・お弁当袋づくりは、役員さんを中心にお母さん方が積極的に参加して下さった。14 名の保護者の方が参加して下さり、絵本のカバーかけや絵本の表紙カバーを使ったパズル制作を行った。 ・クリスマスのプレゼント作りはまつぼっくりを使ったクリスマスツリーを各家庭で作ってもらい、保護者会の役員さんを中心に最後の仕上げを子どもたちと一緒に行った。 好きな色のリボンを選んで、クリスマス当日まで飾っておけるように仕上げて、クリスマスプレゼントとして持ち帰った。
	地域の教育・保育機能を強化します	(17)**【地域の実情の把握、子育て家庭を支援する資源や連携の充実】** ・子どもについての相互理解を図るため、放課後児童クラブと連携していく		・岡保放課後児童クラブで開催する行事へ参加する	(17) ×	・今現在、小学校との連携はあるが児童クラブとは、あまり連携出来ていない。検討していきたい。
Ⅳ子育て文化を育みます	子育てへの関心を高めます	(18)(19)**【子どもと地域の人々との接点づくり】** ・世代間交流・異年齢児との交流の推進 ・保護者奉仕活動･･･保護者・地域との人々と共に、園庭・里山整備 ・こども園の行事・園開放による地域の子どもとのふれあいの提供 岡保なかよし広場・園見学 人形劇の観劇(夏休み中) ・職場体験・ボランティアの受け入れ 社会福祉協議会からのボランティア 自主ボランティア ・実習生の受け入れ	・年間を通して ・年 3 回 ・年間を通して ・年間を通して 男性女性を問わず受け入れる	・おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に遊んだり、子どもたち(孫)と楽しい時間を過ごす ・子どもが遊ぶ園庭や里山の整備を保護者と共に行うことで、こども園での遊びの理解を深める ・子どもの喜ぶ様子を感じ、子育てへの関心を高める ・岡保地区で行われる体育祭や夏祭りに積極的に参加し、園児を日頃温かく見守ってもらう地域の方に対して感謝の気持ちを伝える ・人形劇に小学校の児童を招待し一緒に楽しむ ・地域の子育て支援の場として、年間を通してこども園を開放し、どろんこ遊びの場・交流の場を提供する ・ボランティア、実習などを積極的に受け入れ、子どもたちが色々な人たちとの触れ合いを持てるようにする ・子どもの成長・発達を、一緒に遊ぶことで感じたり、保育者の仕事の内容を知ったりし、社会人としての責任を感じる	(18) ○ (19)	・おじいちゃんおばあちゃんに園に来て頂き、孫の成長を見てもらうことで楽しんでもらえる機会が持てた。 ・地域の夏祭りや体育祭に参加し、園児の元気な姿や踊りを見て頂き、岡保地区民の方に喜んでもらえた。 ・今年度は園見学の希望はあったが、実習生やボランティアの参加者がいなかった。 就職セミナーに積極的に参加したり、学校とも連携を取って学生さんにも保育の楽しさや園の保育の特色をアピールしていきたい。
	子育て文化につながる活動を広げます	(21)**【子育て支援の開発や普及の取組み】** ・評議員会を設置して、評議員へ園の実態を伝え、園内の様子や経営状況を知ってもらう ・公民館との連携を深め、お互いに共通理解し互いの要望に対応していく	・必要に応じて	・評議員会を設置して、園の実態を伝え、園内の様子や経営状況を知ってもらう ・公民館との連携を深め、お互いに共通理解し互いの要望に対応していく	(21) ○	
Ⅴ安心して子どもを生み育てる支援づくりを進めます	これからの乳幼児の教育・保育について研究を進めます	(22)**【こども園の機能・役割について】**	・年間を通して	・子どもたちは、一日のうちの 8 時間～10 時間を園で過ごしているという実態を深く受け止め、日々職員は勉強会を行い質の向上に努める ・子どもの保育だけでなく、一人ひとりの保護者の話にも耳を傾けて、保護者の思いを知り、親支援にも努める	(22) ○	・保育の悩みや保護者の方の悩みついて、昼礼や園内研修で話合い意見を出し合ったり、問題が生じた時には改善に努めたりすることが出来た。 地域の園として、地域の皆様に愛される存在でいようと心がけている。
	社会連帯による子育て支援の仕組みづくりを進めます	(24) **【保育・子育て支援の仕組みづくりをすすめる】** ・園長が会議や研修で聞いてきたことの報告を受ける ・アクションプログラムの内容を毎年、園長・副園長で話し合う ・小学校・地域（公民館）・児童クラブとの連携をとり、子ども達が安心して過ごせるようにする		・園長が会議や研修で聞いてきたことの報告を受ける ・アクションプログラムの内容を毎年、園長・副園長で話し合う ・小学校・地域（公民館）・児童クラブとの連携をとり、子ども達が安心して過ごせるようにする	(24) ○	・研修後の報告を職員会議で月に一度行うようにした。

《園での取組み》　２４のアクションから、取り組む内容(番号)と具体的な取組みを記載する。
《達成度》　◎：当初計画していた目標を大きく上回り、優れた成果を上げた。　○：計画どおりに取り組み、概ね目標を達成することができた。　△：不足する部分や問題があった。　×：目標を達成することができなかった。
《備考》　達成度についての特記事項や次年度に引き継ぎたいことなどを記載する。